

お母さんの

アンテナ

質疑応答

※今回は9/8に開催された報告会の質疑応答とアンケートからです

Q. 医大の鈴木真一先生は、甲状腺がんは進行しにくいので、騒ぎ立てる必要はないと言っていますが…?

(男性 40代)

A. 甲状腺がんの場合には5年後、10年後に転移が見つかる例があります。甲状腺がんは「予後が良好」と鈴木氏は発言していますが、甲状腺がんは切除後、一生、甲状腺ホルモン剤を飲み続けるという悲惨な状況が続くことになります。

Q. 県の検査ではカルテは残っているのでしょうか? (男性 40代)

アンケート(71名回答 一部を紹介)

●学校に勤務していますが、子どもや保護者へどういった対応をしていくべきか悩んでいる状態です。教育委員会が主催する研修会にはたくさん参加してきましたが、原発を推進している国の政策を感じる内容が多い講演者なので、反対側にある方の話も聞いてみたいと思い参加しました。

●福島市で開院している医師です。これまで甲状腺の病変については、福島医大が開いている講習会からの情報しか入ってこないのが、疑問を持ちながら「そのように診断してよいのか」と思い日常診療にあたり、更に患者さんの質問に答えてきた。できれば甲状腺エコー検査法を地元の医師に指導していただきたい。

A. カルテは5年間の保存義務があります(※画像は2年間)。ふくしま共同診療所では全て保険診療にして、カルテも作り、記録も残して、5年間と言わずに、その方が亡くなるまで保存する前提でやっています。

●もっと広めてほしいです。もっとお母さんたちに伝えなければならないと思います。A2で不安でいたお母さんたちがいますので伝えます。

●周りの人に話せないことも聞いて少し安心しました。このような報告会、講演会があると良いと思います。これからもずっと子どもたちを診ていただきたいと思います。

●ホームページに診療から見られる報告、日々の生活の予防、大切なことを載せていただきたい。

●ヨウ素剤が服用されなかった件について、知ることができてよかった。本来なら行政が対応すべき多くの事が個人任せになっています。

くららによる

スタッフ



南相馬出身です
趣味は
食べ歩き
行列店も並びます♪

エコー検査担当臨床検査技師

篠田 アキ子 さん

< 培ってきた経験はこの日のためにある >

1月末から土曜日のエコー検査を担当しています。勤務日は朝5時に起きて東京から通っています。私の1週間は、診療所に来ている土曜日から始まりますね。

私は南相馬市出身で3.11以降、ずっと「現地で何かしたい」と思っていました。国立がんセンターで30年近く一緒にやってきた松江院長からお話を頂いたときはモヤモヤから抜け出し「これまでの経験を生かして役に立てる!」とビビッと突き抜けるものがありました。

検査する人、される人という関係ではなく、相手が大人でも子どもでも同じ目線にたつことを心がけています。

福島では始まらない時間があった!

「放射能の不安の無い大自然で、思いっきり本気で遊ぶ。少し前はできていたはずなのに、今は遊ぶ場所が限られている子ども達」に保養の場を! —この夏も各地で保養取り組みが展開されました。

夏の

保養報告

声

受け入れ側の

「被爆直後に避難したおかげで、原爆の後遺症が出ませんでした」

(長崎の被爆体験者)

「子ども達も大人も疲れているから(放射能を)思いださない時間があっていい」

「みんながみんなの子ども達!」



7/22~26長崎・高島

「泳ぎ溜め、するぞう!」

「100パーセント満足」



8/22~24山梨・忍野村

取り組む大人達がみんな本気なら、子ども達もはじけるように、たっぷりとびのびと本気で遊びました。

原発事故後の福島を取り続けたドキュメンタリー映画『A2-B-C』をご紹介します

— 米国人監督から見た福島の被ばく —

※ポスターや映画の中に出てくる診察映像はふくしま共同診療所で撮影されたものです

動画サイトで「A2-B-C」と検索すると予告編、「フランクフルトより福島へのメッセージ」と検索すると海外からのメッセージを見ることができます。

監督: イアン・トーマス・アッシュ Ian Thomas Ash
1975年生まれ。アメリカ出身。本作『A2-B-C』はドイツで行われた「ニッポンコネクション」で、「ニッポン・ビジョン賞」を受賞。

グアム国際映画祭にて最優秀賞を受賞。海外の映画祭で絶賛され「逆輸入上映」という形になり、東京・渋谷で開かれている「ぴあフィルムフェスティバル」(PFF)で国内初上映され、「山形国際ドキュメンタリー映画祭」でも上映。来春の一般公開をめざし、準備を進めているとのこと。

メディアでは伝えられていない福島で暮らす人々の怒り、不安、戸惑い、苦悩を記録したドキュメンタリー映画です。

汚染された我が家、汚染された学校、町、食べ物。そこを除染、測定。子ども達の甲状腺の検査。異常事態が日々の暮らしになってきている現状のありのままを映し



A2-BC (TRAILER / 予告編) 作経者: Documentingian

『A2-B-C』予告編

出しています。

原発事故直後の政府の対応と、子ども達の環境と気持ちの変化、大人たちの闘いの記録でもあります。

今や放射能の話はタブーとまでなっている福島。隣で起きていることすらわからない状態です。甲状腺検査の結果もその一つといえるでしょう。

この映画で自主的に検査することの大切さを、改めて確認できました。

映画を見たチェルノブイリ出身の女性から「子どもたちを心配することは間違っていない。子どもたちの安全や未来を心配し怒ることは当然です」という言葉。

思わず涙が出てしまう深い意味のあるメッセージでした。

